



日本郵便 年賀寄付金



年賀はがきで贈る、真心と未来。

～あなたの気持ちはこんな活動を支えています～

CONTENTS

03 ~ 助成事例紹介

- 03 ・ 活動・一般 高齢者等の余暇活動支援のための自転車タクシー運用実験
特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ
- 04 ・ 活動・一般 ギャンブル依存症者の回復支援のための「情報総合ポータルサイト」の制作・運営
公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会
- 05 ・ 活動・一般 犯罪加害者家族の現状と支援を考えるシンポジウムと相談会の開催
特定非営利活動法人World Open Heart
- 06 ・ 活動・一般 紙の間仕切りシステムを使用した避難所環境改善のための防災プログラム提供事業
特定非営利活動法人ボランティア・アーキテクツ・ネットワーク
- 07 ・ 活動・チャレンジ 様々な独居等高齢者のための居場所づくり事業
特定非営利活動法人咲良の会
- 08 ・ 活動・チャレンジ 就労世代のがん患者が治療と仕事を両立するためのピアサポートによる相談支援事業
特定非営利活動法人ミーネット
- 09 ・ 施設改修 事務所での障がい者交流および雇用のためのバリアフリー改修事業
特定非営利活動法人ポケットサポート
- ・ 機器購入 風水害による被害を受けた浸水家屋への災害ボランティアによる清掃活動に必要な資機材である送風機の新規設置事業
一般社団法人ピースポート災害支援センター(PBV)
- 10 ・ 車両購入 軽作業部門における資源回収用軽トラック車の更新事業
社会福祉法人すこう福祉会
- ・ 特別枠 熊本地震の土砂災害警戒区域における森林整備とコミュニティづくり
特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

11 ・ 年賀寄付金評価委員会 委員長あいさつ

- ・ 寄付金付「年賀はがき・年賀切手」の種類について

12 ・ 年賀寄付金配分事業とは

2018年度 助成活動結果

申請：846団体 配分：175団体 助成総額：300,701,000円



高齢者等の余暇活動支援のための自転車タクシー運用実験

地域 愛媛県 助成金額 216万円 団体 特定非営利活動法人シクロリズムしまなみ

愛 媛県今治市は、しまなみ海道の架橋エリアで多くの人がサイクリングを楽しんでいる。自転車で旅をするということとを地域独自の資源として育てるために2009年に事業をスタートして住民の協力を集め、今では400軒を超える世帯が軒先を休憩スペース「サイクルオアシス」として提供するようになった。また、高齢化が進む中で「買い物に行けない」「車では行けないところを散策したい」という声をもとに、自転車タクシー事業を開始。住民利用のニーズと観光誘客のニーズの相乗的試行として、自転車タクシーの修繕、運行エリアの関係機関やステークホルダーとの協議を実施。

1 乗車体験会、サイクリングガイドツアー



自転車タクシー乗車体験を2回、サイクリングガイドツアーを3回実施。また、並行してドライバーの確保を意識した「ガイド育成会」を行なって地元から担い手を募集し、大学生等を中心とした参加者が安全運行のための技術等を取得。さらに、起終点となる停留所「サイクルオアシス」には目印となるサインを整備。

乗車体験会参加者…53名 案内ガイド育成…3名

2 ツール製作、しくみの検討



「サイクルオアシス」を停留所として活用した最適な周遊ルートを選択し、定期的な運行に向けた基盤を整え、停留所等の起終点周辺での、飲食、ショッピング、散策等を楽しむための情報誌を製作。

マップ・情報誌… 13,000部(各)

成果



地域の福祉サービス、新たな観光資源として運行中！

自転車の「ゆっくり回遊できる」という特徴を活かして、町の歴史を伝えたり、新たな視点で町を楽しんでいただくと共に、地元企業からの広告料も得ることができた。また、呉服屋やホテル等と連携し、観光客が自転車タクシーで回遊できる観光資源開発にも着手。



犯罪加害者家族の現状と支援を考える シンポジウムと相談会の開催

地域 宮城県 助成金額 210万円 団体 特定非営利活動法人World Open Heart

欧 米諸国では、再犯防止や犯罪の世代間連鎖を断つことを目的として加害者家族支援が広く行われているが、日本では加害者家族への理解は十分とはいえず、国内での支援団体は2つのNPO法人にとどまる。World Open Heartは、差別に苦しむ社会的弱者や少数者を支援することを目的に加害者家族支援に取り組む日本初の団体。これまで宮城県仙台市を拠点に、東京、大阪という都市で1800件以上の加害者家族を支援してきた経験を通し、差別・排除は地方でこそ深刻であると感じていたため、今回は九州地域での加害者家族支援ネットワークを構築。

1 九州地域の加害者家族支援の立ち上げ



地方において、協力者として名乗り出てくれる市民を探すことは想像以上に困難であった。そのため、関係各所にできるだけ多く足を運び、パンフレットを持参したりなどして活動の説明をすることで協力者を少しずつ増やしていった。九州地方では熊本からの相談が最も多かったため、熊本大学法学部の岡田行雄教授に世話人を委託し、弁護士をはじめ、あらゆる分野の支援者と協力することで、最も必要な地域に加害者家族支援の受け皿をつくることができた。

団体パンフレットの配布

弁護士事務所…22ヶ所 関係団体…13ヶ所 刑事施設…8ヶ所

2 加害者家族の相談会

新規相談…約200件

3 加害者家族の集い

開催回数…7回

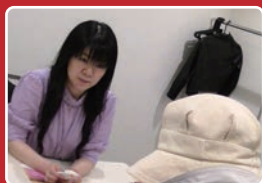
4 シンポジウム

会場…福岡、名古屋、仙台、東京

参加者数…各回30名

報道…25社 取材…30社以上

成果



発展が難しいと思われた九州で加害者家族支援モデルを実現！

9月以降毎月、熊本で加害者家族のための相談会と加害者家族の集いを開催できたことによって、社会的に追い詰められている加害者家族への緊急対応に繋がった。今後さらに、四国や北陸など日本全国の支援ネットワーク構築の展開を目指す。

撮影協力：神奈川県総合防災センター

紙の間仕切りシステムを使用した 避難所環境改善のための防災プログラム提供事業

地域 東京都 助成金額 240万円 団体 特定非営利活動法人ボランティア・アーキテクト・ネットワーク

ボランティア・アーキテクト・ネットワークは、国内外の大規模災害発生時において被災者への住環境に対する支援事業や、防災訓練を通じた啓発事業など、震災被害からの円滑な復旧・復興、及び被害の最少化に寄与することを目的として活動している。避難所でのプライバシー確保のために紙管と布を利用した紙の間仕切りシステムは、2011年に発生した東日本大震災では4ヶ月にわたり 50ヶ所の避難所に対して1,800ユニットを提供した。今回は、より迅速な支援ができるように普及啓発取り組んだほか、大規模災害において間仕切りシステムを設置。

1 紙の間仕切りシステムの体験型防災訓練



自治体や行政主催の防災訓練にて、紙の間仕切りシステムを実演。参加者が自ら組み立てを行うことにより、実際の災害時により迅速に間仕切りシステムを設営可能となるよう指導。

実施・・・21ヶ所 参加者数・・・約1,600名

2 大学でのリーダーシップ養成レクチャー

災害発生から避難所の開設までの流れや、避難所での問題、組立方法等を伝え、避難所でリーダーシップを取れるよう指導。

参加者数・・・80名

3 宿泊型訓練

通常の防災訓練とは異なり、実際の災害に近い状況で避難所体験を行うことで、プライバシー確保の重要性をより実感できるプログラムを提供。

参加者数・・・20名

4 間仕切りシステムの設置

大阪北部地震・・・40ユニット

西日本豪雨災害・・・1,240ユニット

北海道地震・・・360ユニット

成果



実際の災害時にも効率的に間仕切りを設置！

大規模災害が発生し40ヶ所の避難所から設置の要望を受け、被災地の学生やボランティアと連携することで、効率的に間仕切りシステムを設置することができた。今後は、紙の間仕切りシステム組み立てマニュアルを作成し、自治体との連携によって、迅速な支援ができることを目指す。



様々な独居高齢者のための居場所づくり事業

地域 広島県 助成金額 50万円 団体 特定非営利活動法人咲良の会

咲 良の会は、超高齢化社会が進む日本において、老いを迎えるにあたって避けては通れない様々な問題について学び、集い、考え、支え合うため新たなセーフティネットとなりうる社会基盤を目指して、広島市中区基町で地域づくりを行ってきた。自宅、病院、施設のいずれでも最期を迎えることができない高齢者が増えているなか、住民が一体となった見守り環境を醸成するために、老若男女問わず集まれる複層的な構成の居場所や交流の場づくりに取り組んだ。

1 コミュニティ食堂



独居等の高齢者が「誰かと会話しながら食事できる」ことを目的に、低価格で食事を提供。

開催回数…241回/年

参加者数…2400名

4 『人生劇場紙芝居』等による 記憶の呼び起こしと死の学習会

人生の来し方を紙芝居化して上演。

開催回数…11回/年

参加者数…100名

2 夜の世代交流居酒屋

「持ち寄り居酒屋」スタイルの夜の交流会

開催回数…12回/年 参加者数…100名

3 自己表現活動「祭り・音楽会」

民謡や三味線などの発表会

開催回数…2回/年 観客,参加者数…延べ200名

5 「歌唱による思い出語りの会」と リビングウィルを語り遺す会」

思い出の歌等を思い出すため、歌あり思い出話ありのヒアリングを実施。

開催回数…11回/年

リビングウィル…5名

成果



「庶民高齢者のコレクティブタウン」実現に向けた第一歩に！

昼も夜も、日常も祭事も、食も歌も、死のテーマも、という複層的な居場所づくりをすることができた。また『人生劇場紙芝居』の活動が北海道十勝振興局長の目に留まり、十勝帯広で紙芝居会やシンポジウムが開催されることになるなど事業が県外にも広がった。



就労世代のがん患者が治療と仕事を両立するためのピアサポートによる相談支援事業

地域 愛知県 助成金額 50万円 団体 特定非営利活動法人ミーネット

人口の急速な高齢化に伴い、国民の二人に一人が「がん」にかかる時代になり、2025年前後にはがんの罹患数はさらに増加すると予測されている。しかし、様々な背景を持ったがん患者が自分なりの選択肢や解決策を得るための、医療・福祉分野のサポート体制はまだ不十分といえる。NPO法人ミーネットは、がん患者・家族と同じ立場で相談支援にあたるピアサポーターを養成し、支援活動に取り組んできた。今回は、がん患者の就労支援相談に向けた実践マニュアルや「がんと就労」をテーマとした研修、社会保険労務士等との協働に取り組んだ。

1 がん患者の就労支援相談に向けた実践マニュアル制作



ピアサポーターが実践的な相談支援に取り組むためのマニュアルを制作。Q & A形式で、使用者となるピアサポーターの意見や要望を反映。

制作部数・・・200部

3 ピアサポーターと社会保険労務士等の協働相談会



国のがん対策の重点課題でもある「がん患者の就労支援」において、がんのピアサポーターが相談者と同じ立場で支援するという新しい支援の形を示すことができた。また、相談者の92%が「相談してよかった」と回答。

相談者数・・・14名

2 「がんと就労」ピアサポーター研修



マニュアルを教材として2回研修を行い、研修の受講者アンケートでは、研修の評価として90%の受講者が「よい」と回答。

参加者数・・・55名

成果



就労支援の知識をもったピアサポーターの有効性を示せた！

ピアサポーターが、それぞれの体験に加え就労支援に関する一定の知識を備え、適切な相談機関につなぐことができれば、就労世代のがん患者が治療と仕事を両立するためのキーパーソンとして機能するとわかった。今後は、行政や医療機関との連携をさらに深めていく。

施設改修

社会福祉の増進



事務所での障がい者交流および雇用のためのバリアフリー改修事業

地域 岡山県 助成金額 343万円 団体 特定非営利活動法人ポケットサポート

長 期入院や療養によって学習や体験の機会を失ってしまう子どもたちのために、学習や社会体験を補う事業を行なっている。活動拠点の玄関に段差があり車椅子では気軽に集まることができなかったため、玄関のバリアフリー化と洗面台の障害者対応バリアフリー工事を実施。

車椅子利用者の雇用確保

年間120時間

成果



足が不自由な子ども、若者の活動拠点として改善！

足が不自由な子どもたちや、高校卒業後の若者が活動拠点として集いやすい環境に改善することができた。今後は、岡山市内を中心とした小児入院病棟のある総合病院や保健所と連携し、病気の子どもたちが安心して過ごせる地域づくりを目指す。

機器購入

風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防



風水害による被害を受けた浸水家屋への災害ボランティアによる清掃活動に必要な資機材である送風機の新規設置事業

地域 東京都 助成金額 34万円 団体 一般社団法人ピースポート災害支援センター(PBV)

水 害が起こると、被災した家屋の床下や木部を乾燥させる必要がある一方で、床下の復旧は狭く暗所での作業になるため、酸欠やケガなどを起こしやすく、ボランティアで対応することが難しい。その課題を解決するため、助成金を活用して送風機やフレキシブルダクトを整備。

対応した被災家屋

50件以上

成果



被災家屋50件以上で病原菌の軽減や予防、生活再建に貢献！

西日本豪雨の被災地支援において、岡山県倉敷市真備町を中心に被災家屋50件以上に対応。いち早く床下などを乾燥させることにより、病原菌の軽減や予防、生活再建につなげることができた。2020年に発生した7月豪雨災害の被災地でも、送風機を活用した支援を実施。

車両購入

社会福祉の増進



軽作業部門における 資源回収用軽トラックの更新事業

地域 長野県 助成金額 54万円 団体 社会福祉法人すこう福祉会

す こう福祉会が12年間継続してきた資源回収事業では、独居高齢者や障がい者の方が新聞紙などをゴミステーションまで持ち運ぶことが難しいというニーズに、軽トラックを使い利用者の“仕事”として取り組んできたが、車の老朽化が進んでいたため、新たな軽トラックを購入。

新たな資源回収件数

3件

成果



利用者の仕事を継続させ、工賃の保証につながった！

新たに軽トラックを購入したことで資源回収事業を継続することができた。また、近隣の方との資源回収の輪が広がり、市立図書館の資源回収作業など、対応先を新たに3件増やすことができた。利用者の仕事を継続できたことで、工賃の保障にもつながっている。

特別枠

風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防



熊本地震の土砂災害警戒区域における 森林整備とコミュニティづくり

地域 熊本県 助成金額 350万円 団体 特定非営利活動法人九州バイオマスフォーラム

森 林整備や間伐の体験を通して子どもたちに資源の循環を伝える「森づくりワークショップ」の実施と、「なみの高原やすらぎ交流館」への薪ストーブの設置によって、薪ストーブが普及し、地元の人々の暮らしに間伐材が利用され、森林整備と資源の循環が進むことを目指した。

ワークショップ

参加者数・・・延べ55名

成果



森林整備の重要性を伝え、防災拠点も整備！

土砂災害の危険区域である阿蘇市狩尾「熊本YMCA尾ヶ石保育園」周辺の森林1haを整備。一部を園児や保護者と一緒に行い、その重要性を共有できた。薪ストーブを設置した交流館は、災害時にライフラインに依存せずに暖を取れる防災拠点としても整備することができた。

年賀寄付金評価委員会 委員長あいさつ



年賀寄付金評価委員会 委員長

川北 秀人

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者

高齢化と人口減少が同時に進み続ける日本では、家族も小さくなり続けています。すでに全世帯の3軒に1軒以上がひとりぐらし。私たちの暮らしにとって、地域などで助け合うことは、これまで以上に大切です。ここに紹介されたものをはじめとする175件の活動は、みなさまからお預かりした寄付金を大切にいかしながら、各地で助け合いの機会を積み重ね続けています。かつてない年を過ごした後に書く年賀状は、特別な意味を持ち、くる年の幸せに込める願いも、深く募ったことでしょう。そんな心や気持ちがこもった年賀状で、人々のくらしや自然を守る活動を支え続けてくださることに心からお礼申し上げます。

寄付金付「年賀はがき・年賀切手」について

寄付金付絵入り年賀はがき（販売価格68円、内寄付金5円）

全国各地の郵便局で販売する全国版と、各地方限定での販売となる地方版があります。地方版は各地域の景勝地や公式マスコットキャラクターなど特色のあるデザインとなっています。



全国版



東京都



北海道



宮城県



新潟県



大阪府



熊本県



沖縄県

地方版（一部の地域限定発売）

寄付金付お年玉付年賀切手

お年玉くじが付いた年賀切手です。

※画像は2021年用のものです。



寄付金付お年玉付き
年賀63円切手
（販売価格66円、内寄付金3円）



寄付金付お年玉付
年賀84円切手
（販売価格87円、内寄付金3円）

寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご購入いただくことで、気軽に寄付活動に参加することができます。新年のごあいさつには、ぜひ寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご利用ください。

詳細はこちら▶

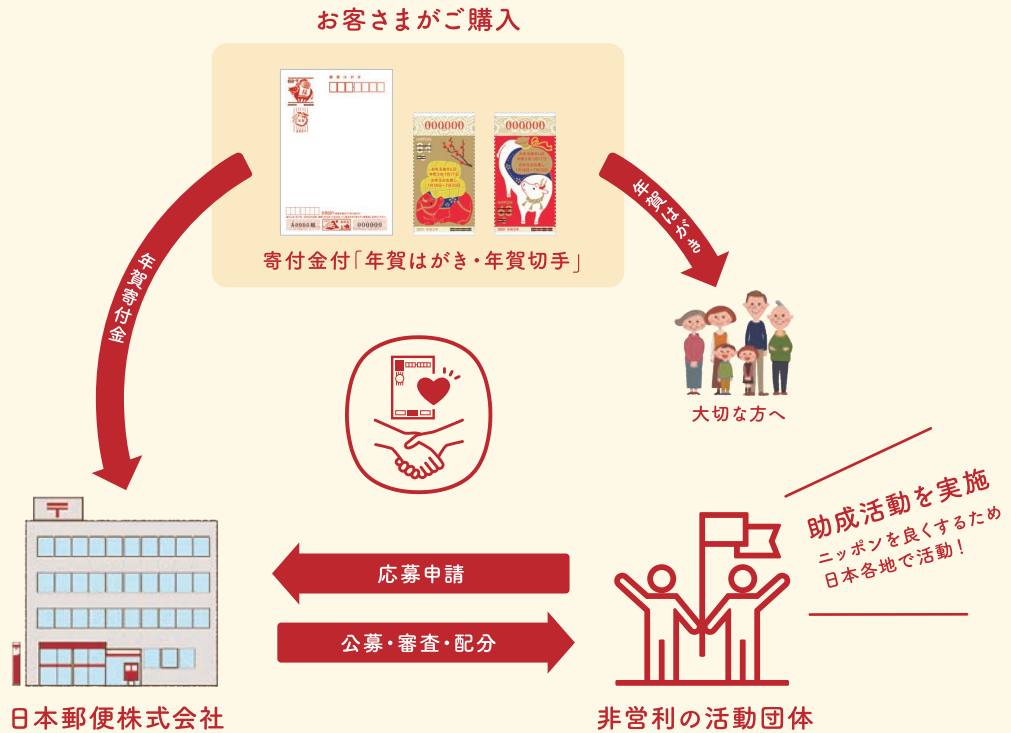


日本郵便は、寄付金付年賀はがきや切手を通じて、皆さまからお預かりした寄付金を大切に社会に役立てていきたいと考えています。

年賀寄付金配分事業とは

全国の皆さまに寄付金付「年賀はがき・年賀切手」をご購入いただくことで寄せられる寄付金を日本郵便がお預かりし、「お年玉郵便葉書等に関する法律」の規定に基づき、総務大臣の認可のもとに毎年配分を行っています。1949年にはじまり、これまで71回配分を行っています。寄付金による配分額は、これまでに合計で約513億円にのぼります。

年賀寄付金配分事業の仕組み



寄付金の使い道

10分野の事業を行う団体に公募をし、外部有識者による委員会が、配分する団体や配分金額の審査を実施しています。

社会福祉の増進

風水害・震災等、非常災害時の救助・災害の予防

青少年健全育成のための社会教育

交通事故、水難の救助・防止

地球環境の保全

がん、結核、小児まひなどの研究・治療・予防

健康保持増進のためのスポーツ振興

原子爆弾の被爆者への治療・援助

開発途上地域からの留学生・研究生の援護

文化財の保護

年賀寄付金配分事業紹介アニメーション

年賀寄付金配分事業をアニメーションで紹介しています。ぜひご覧ください。

